

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目150分

## 解答形式

記述, 論述, 選択, 描図

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・変化なし・増加) 難易 (易化・変化なし・難化)

大問数は例年通り3題であり, 問題文の分量は昨年よりやや減少し, 論述問題の指定行数は昨年の26行程度から27行程度へと微増したことから, 全体としての分量は昨年並みであった。さらに, 昨年と同様に難易度の高い考察問題が多く, 難易度は昨年並みであったと考えられる。

## 出題の特徴

出題の多くは考察問題である。昨年は指定行数が4行程度の比較的長い論述問題が出題されたが, 今年は論述問題の最大行数は3行程度であった。また, 2004年度以来11年ぶりに描図問題が出題された。

## その他トピックス

第3問は, 河合塾の講習の中に類似のテーマの問題(2014年度冬期講習東大生物テストの第1講第2問)があり, 受講した受験生には有利であったと思われる。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	記述 論述 選択 計算	恒常性 タンパク質 遺伝 植物の反応	生物 基礎 ・ 生物	I D 淡水魚は $(0.024 \times 140) \div 0.69 \approx 4.9$ ミリ mol/L となり, 海水魚は $(0.23 \times 150) \div 0.66 \approx 52.3$ ミリ mol/L となる。	やや難
第2問	記述 論述 選択 計算 描図	生殖 遺伝子 遺伝 タンパク質	生物 基礎 ・ 生物	II E 異常な細胞をもつ花粉管が最初に胚のうに進入すると, 助細胞の機能を抑制する仕組みがはたらかず, 2本目の花粉管が胚のうに進入できると考えられる。	やや難
第3問	記述 論述 選択 計算	生態系 個体群 系統	生物 基礎 ・ 生物	I D $\{(25-2) \div 25\} \times 100 = 92\%$ II C 成長が遅い植物は光をめぐる競争に弱い ため, 草食獣排除区の実験区 c ではこのような植物の種数が少ないと考えられる。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

- ・教科書レベルの知識を確実に身につけ, 標準的な問題を解いておこう。
- ・50~100字程度の論述で, 要点を素早く簡潔にまとめる練習をしておこう。
- ・過去問, とくにここ数年間の研究を十分にしておこう。
- ・最近の生物学のトピックスにも注意しておこう。